

[特別付録 小冊子] **KW SUSPENSIONS**

Secret Britain

英国の真実

イギリス、そしてイギリス車の奥深さを検証

アストンマーティンDBSスーパーレジャータの衝撃

マクラーレン・セナをストリートで試す

本国ファクトリーで見た継承と革新の哲学

沢村一樹が語るモデルカーの魅力

マクラーレン・スピードテールの全貌



The Battle

メルセデス・ベンツGクラス × ジープ・ラングラー

マクラーレン570GT × ポルシェ911ターボS

レクサスLS500 × メルセデス・ベンツS450

スペシャルショップ全国版

4

88GTBを見かける機会が次第に増えてきた。たとえば、手がフェラーリの新型モデルだろうが、今や世界中から瞬時にカスタムカーが誕生し、様々なコーディネートが見受けられるのが定説となった。目の前に現れたこの個体は、一見したところ定番のカスタムながらも、かといってありきたりではない。独特の雰囲気を持っていた。

強いていうなら、日本で生まれた和製ビスタみたいだ。イタリア語でサーキットを意味する「Pista」という言葉が添えられた488の派生モデルは、ロードカーでありながらサーキット走行を深く見据えたホットモデルである。徹底的な軽量化と、エアロダイナミクスやシャシーダイナミクス、パワートレイン技術に磨きが掛けられたという。中でも純レーシングカーである488チャレンジやGTEはおろか、F1マシンからもヒントを得たというエアロダイナミクス技術は見ものである。

そんな488ビスタをオマージュしたかのようなボディパーツが、この個体には装着されている。フェラーリ専門ブランドとして定着するノヴィテック・ロッソ製のスポイラーに、エキゾーストで有名なカプリスト製のドアミラーやフューエルキャップなど、もちろん、すべてがカーボン製である。過度にレーシーになり過ぎず適度な塩梅でまとめられる。その上でF1エキゾースト製のエキゾーストシステムによって、サウンドの面での存在感を露わにする。こうしたパッケージングのキモと

HYPER FORGED HF-LC5 for Ferrari 488GTB

フェラーリ488GTBのカスタムがいよいよ盛り上がってきた。ここに登場したのは、まるで和製ビスタかと思わせる硬派仕上げ。あの手この手でクルマを引き締めるECスペックのセンスと、そしてキモとなるハイパーフォージド製ホイールに注目したい。

REPORT●中三川大地(Daichi Nakamigawa) PHOTO●楠本ヒロト(Hiroto Kusumoto)

要所を引き締め、整えた

まるで和製488ピスタ

なるのは、ホイールかもしれない。投入されるのはハイパーフォージド製のHF-LC5である。実は一番ピスタっぽさを色濃く感じさせたのがホイールを見たときだった。ピスタに純正装着されるホイールを、より研ぎ澄まし、鋭利に仕立てたかのような造形。ピスタに用意されるオプションホイールは、アルミ製に比べて40%ほど軽量なカーボン製だから、単純に比較することはできない。それでも720psという強烈な出力性能を難なく受け止める強度と剛性

は、HF-LC5にも備わっているはずだ。国産鍛造技術を筆頭に、最先端の加工技術などを組み合わせたハイパーフォージドの中でもフラッグシップにあり、その実力は今まで数多くのスーパースポーツ系ユーザーが認めている。

HF-LC5のデビューは2014年と、決して新しいモデルではない。それなのに最新のフェラーリに似合うばかりか、純正ホイールを超越したかのようなデザイン性には、改めて唸られる。かつては同銘柄をセ

ンターロックにしてF40に投入した例があり、これもまた抜群に似合っていた。まるで時間軸を超越するかのようフェラーリとは呼応しあうのだと思われた。

さらに、この研ぎ澄まされた造形をあえて控えめに見せるように、黒一色に落とし込んだところに凄みを感じさせる。正確にはディスクがブラック・アナダイズド・ブラック、リムはアナダイズド・マッドブラックだ。それらをつなぎとめる12本のボルトも含めて黒色となる。こ

うして鈍く落とし込まれた表面処理が、無骨な雰囲気を含ませるほか、これならサーキットを走ったタイヤカスやブレーキダストにまみれていてもカッコいいと感じさせる。

サイズはフロント9・5J×21インチ、リヤ12・5J×22インチというもの。それぞれ255/30、335/25のピレリP-ZEROが組み合わされた。純正は前後とも20インチ(ピスタを含む)だから、それぞれ1・2インチアップとなる。本気でサ

カーボン地が美しいドアミラーやフューエルキャップはカプリスト。自社でカーボンやエキゾーストを生産するドイツのブランドだ。スポイラーはフェラーリ界の大御所ノヴィテックロッソ。マフラーはF1エキゾースト。異ブランドの融合はECスペックの得意技だ。



華やかなイエローのボディカラーながらも、随所に落とし込まれた黒色の塩梅やカーボン地で硬派な雰囲気を匂わせる。ホイールの色味を含めて全体が統一された良い見本だ。

2014年に発売されたHF-LC5。未だに全く鮮度を失うことなく、488GTBを引き立てる。鍛造感に溢れるシャープなデザインは、フェラーリ純正ホイールをより研ぎ澄ましたようでもある。フロント9.5J×21インチ、リヤ12.5J×22インチ、タイヤサイズは255/30、335/25となる。

PRICE LIST	
HYPER FORGED HF-LC5	
19インチ(7.5J~14.0J)	13万5000円~
20インチ(7.5J~15.0J)	14万6000円~
21インチ(7.5J~14.0J)	17万6000円~
22インチ(8.5J×14.0J)	22万3000円~

※価格は税別。

問い合わせ/ハイパーフォージド
☎072-256-6664 <http://www.hyperforgedwheels.com/>

取材協力/ECスペック ☎092-406-1414
<http://www.ec-spec.jp>

フェラーリが己の理想像を描いたピスタは、確かに文句の付けどころのない完成度を持つ。しかし、その表情をオマージュしたかのように、GTBを引き立てたECスペックの感性と、そしてハイパーフォージドの潜在能力には驚かされる。むしろ、ストリートで映えるのはコチラかもしれない。「スーパースポーツに似合うハイパーフォージド」を改めて感じた。

キット走行を突き詰めるのであれば、タイヤ銘柄の選択肢や、または相応のエアポリウムが必要だとして20インチなのかもしれない。しかしながらスタイリングの落ち着き具合でみたら、無理に大口径を履かせている感覚などどこにもなく、むしろこれがベストアンサーだと思える。先に触れた黒色コーディネイトも効いているのだろう。フェンダーやブレーキキャリパーとのクリアランスも適正だ。このあたりは0・5J刻みで7・5Jから15・0Jまで、インセットも含めて細かく指定できるハイパーフォージドの対応力と、車高とその前後バランスを含むサスペンションの設定から、タイヤ銘柄のショルダーの立ち具合まで踏まえて詰めていくECスペックのセッティング力が光る。

